

平成27年度 習志野市こどもの発達支援に関する基礎調査(概要版)

1. 調査の目的

習志野市では、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもたちが自分らしく生きることができる社会を実現するための政策を推進するため、施策ロジック・モデル(施策目的と手段の論理的な体系)に基づく協働型プログラム評価に取り組んでいる。本調査は、本市の発達支援施策に関わる人々、具体的には、①発達支援を受けている子どもの保護者、②発達支援業務・活動を行っている人々、③発達支援施策の策定、実施、評価に関わっている人々を対象に、施策目的の達成状況などの評価情報を収集・分析するために行われたものである。

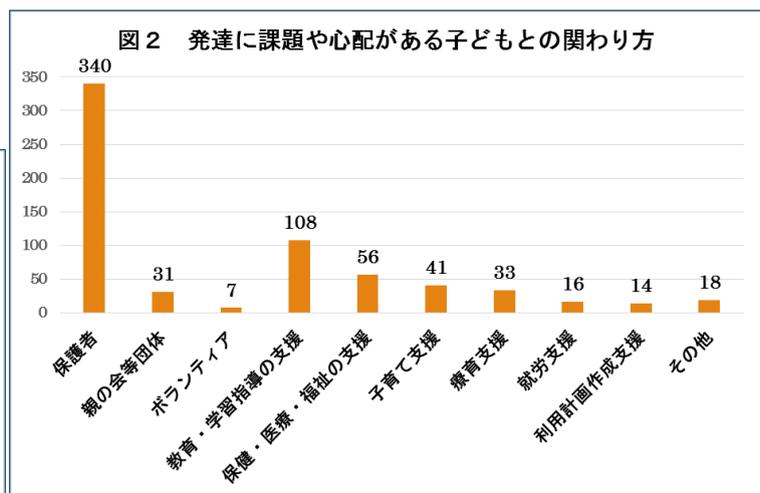
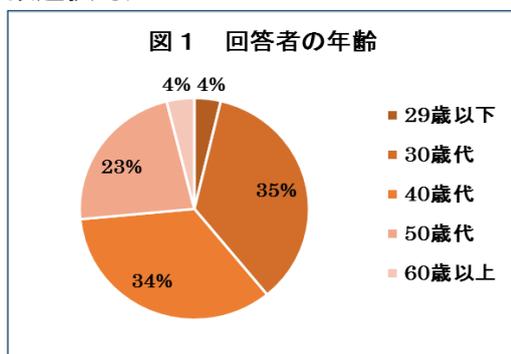
2. 調査の概要

本調査では、①保護者754名、②発達支援業務従事者184名、③発達支援施策関係者67名、の計1,005名を対象として同一内容の質問票によるアンケートを行った。郵送と手渡しを併用して調査票を届け、郵送返信あるいはウェブ送信によって回答を得た。回収数は542票、回収率は53.9%であった。

3. 調査対象者の特徴

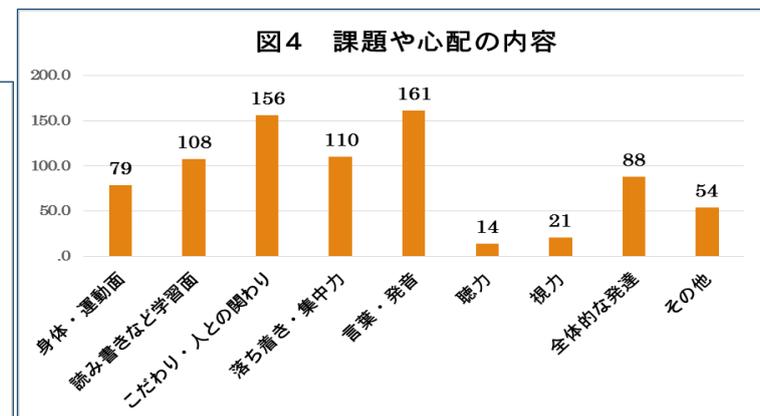
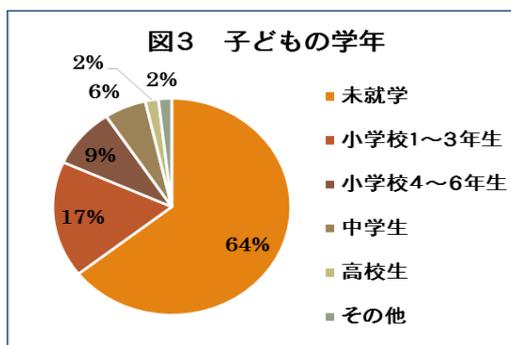
回答を得た542名の男女比は、男性85人15.7%、女性456人84.1%であった(無回答1人)。回答者の年齢構成は図1のとおりで、30歳代と40歳代が合わせて約70%(377人)を占めている。

また、図2にみられるように、回答者の多く(340人62.7%)が発達に課題や心配がある子どもの保護者であった。(複数選択可)



回答者が保護者の場合は、発達に課題や心配がある子どもの属性についても尋ねている。子どもは6割以上(215人64.4%)が未就学児で(図3)、課題や心配としては、人との関わりや言葉など、対人関係に関連する内容が最も多かった。

(図4: 複数選択可)



4. 調査結果

次頁以降は、発達に課題がある子どもが置かれている生活環境や社会状況、行政による支援などについて、回答者達がどのように捉えているか、調査の結果をまとめたものである。説明文の中の【子ども】という表記は「発達に課題がある子ども」を指す。また、「肯定的回答」は「1. とてもそう思う」と「2. そう思う」という回答の合計、「否定的回答」は「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」という回答の合計である。問3から問9までの各設問では、「現状についての評価」と「過去から現在までの変化(望ましい方向に改善しているか)」を尋ねる2つの問がセットになっている。

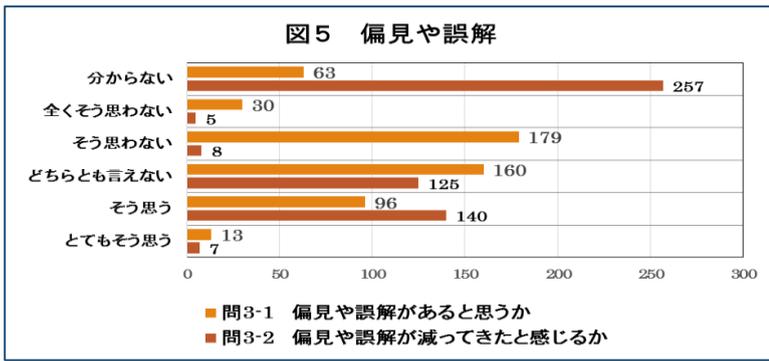


図5 習志野市において、【子ども】に対する偏見や誤解があると思うかどうかについては、「そう思わない(179人33.1%)」と「どちらとも言えない(160人29.6%)」という回答が多かった。偏見や誤解が減ってきたと思うかについては、「分からない(257人47.4%)」という回答が半分近くを占めたものの、肯定的回答(147人27.1%)が否定的回答(13人2.4%)をはるかに上回った。

図6 【子ども】に対する差別や排除(いじめなど)の有無については、「どちらとも言えない」と「分からない」が多いが、肯定的回答(127人23.4%)が否定的回答(107人19.7%)を多少上回った。差別や排除が減ってきたと感じるかどうかは、「分からない(298人55.1%)」が突出して多いが、減ってきたという肯定的回答(100人18.5%)が否定的回答(14人2.6%)よりかなり多い。

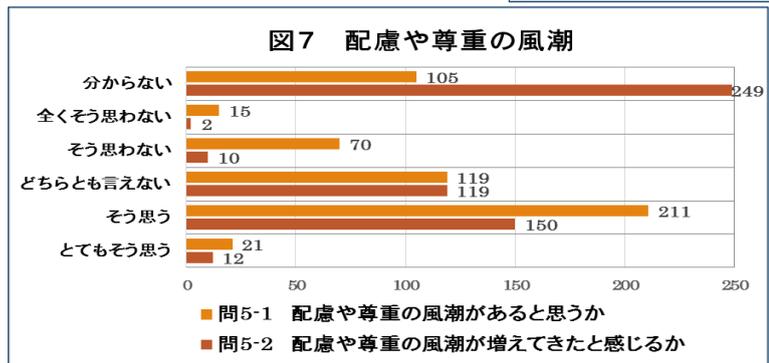
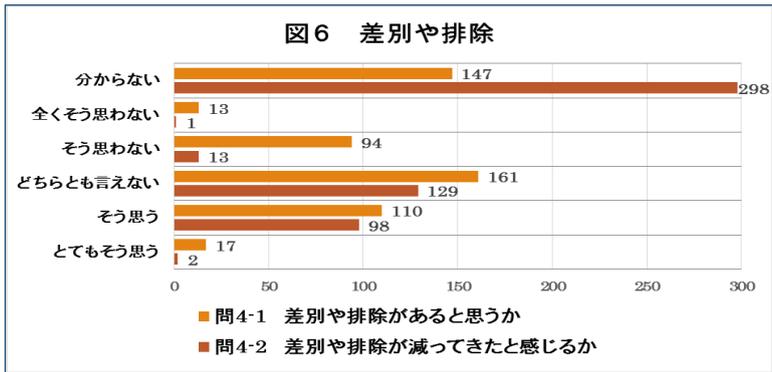


図7 【子ども】に対する配慮や尊重の風潮があると思うかについては、肯定的な回答(232人42.9%)が否定的な回答の合計(85人15.7%)よりもはるかに多い。またその風潮が増えてきたと感じるかどうかについては「分からない(45.9%)」という回答が半数近いが、これに次いで、増えてきたという肯定的回答が約3割(162人29.9%)で、否定的回答(12人2.2%)を上回る。

図8 【子ども】が社会参加できていると思うかについては、肯定的回答(114人21.7%)は否定的回答(80人15.2%)よりも多いとはいえ、2割程度にとどまる。社会参加の機会が増えてきたと感じるかについては、「分からない」と「どちらとも言えない(以前と変わらない)」が合わせて8割以上(428人81.2%)を占めるが、残りの多くは肯定的回答(90人17.1%)である。

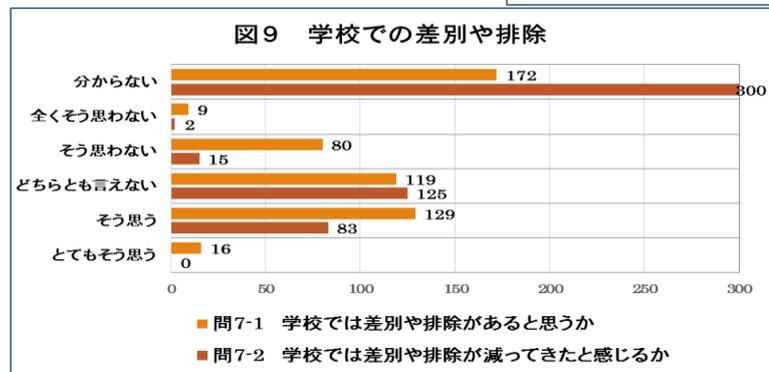
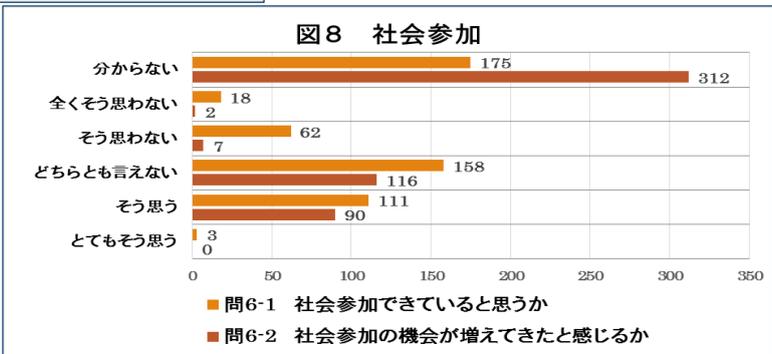
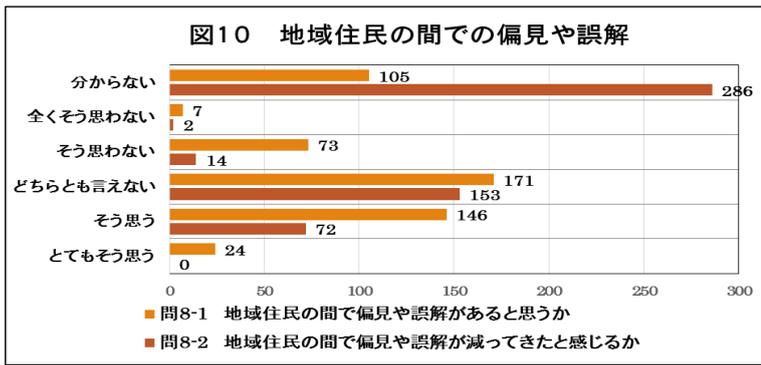
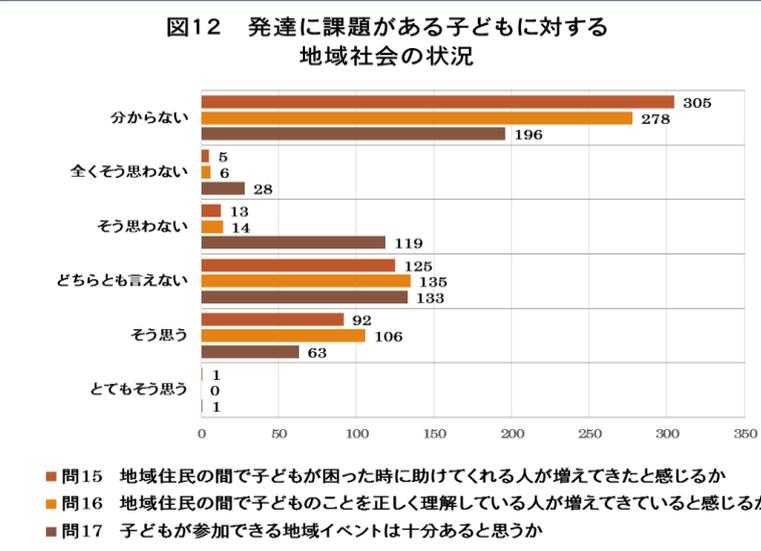
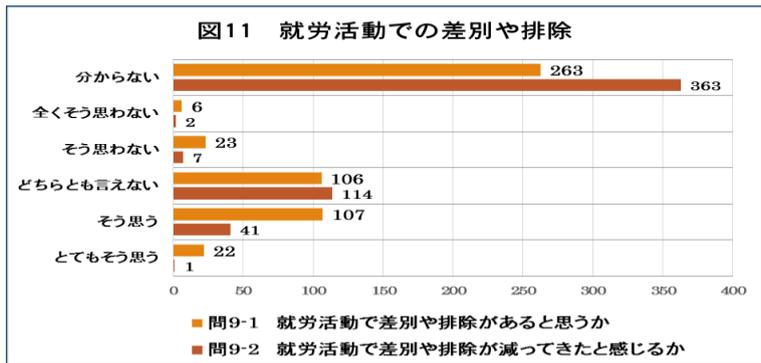


図9 学校での差別や排除(いじめなど)については、ある(「そう思う」と「とてもそう思う」)の計145人27.6%という回答が多く、否定的回答(89人16.9%)を10ポイント以上上回っている。また、差別や排除が減ってきたかどうかについては、「分からない」という回答が300人57.1%を占めるが、これを除くと減ってきたという回答(83人15.8%)が否定的な回答(17人3.3%)を上回っている。



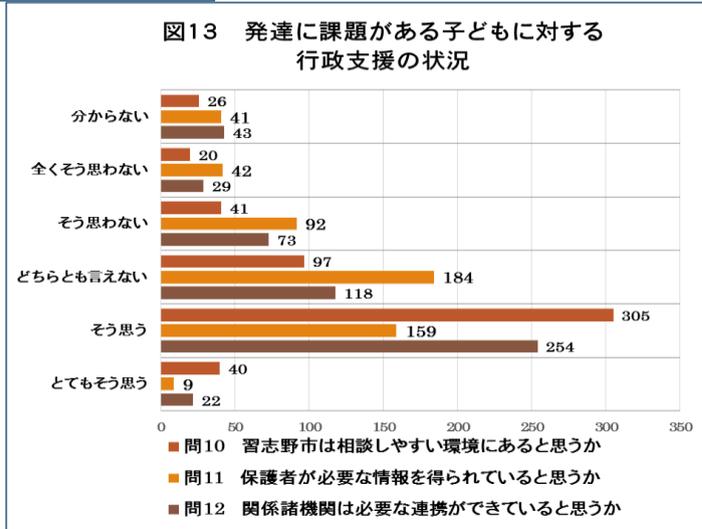
【子ども】に対して地域住民の間に偏見や誤解があると思うかどうかは、「どちらとも言えない(171人32.5%)」に次いで偏見や誤解があるとする回答(170人32.4%)が多く、ないとする回答(80人15.23%)を上回っている。そのような偏見や誤解が減ってきたかどうかについては、「分からない(286人54.3%)」と「どちらとも言えない[以前と変わらない](153人29.0%)」が多数を占めた。

就労活動における差別や排除(いじめなど)についても、「どちらとも言えない」を除くと、差別や排除があるという回答(129人24.5%)が多く、差別や排除の存在に否定的な回答(29人5.5%)をはるかに上回っている。また、そのような差別や排除が減ってきたと感じるかについては、「分からない(363人68.8%)」と「どちらとも言えない[以前と変わらない](114人21.6%)」が大多数を占めている。



【子ども】が置かれている地域社会の状況に関する3問のうち、地域住民の間に【子ども】が困った時に助けてくれる人が増えてきていると感じるか、という問に対する肯定的回答は93人17.2%にすぎない。【子ども】のことを正しく理解している人が増えてきていると感じるかについても、そう感じるという回答者は2割弱(106人19.7%)にとどまっている。さらに、【子ども】が参加できる地域のイベントが十分あると思うか、については、肯定的な回答はわずか64人11.9%に過ぎず、否定的な回答(147人27.2%)のほうが多い状況である。

【子ども】に関する行政支援について、習志野市は困ったことを相談しやすい環境にあると思うかを尋ねたところ、肯定的回答(345人65.2%)が否定的回答(61人11.6%)を大きく上回った。しかし、保護者が必要な情報を得られていると思うかは、肯定的回答(168人31.9%)と、「どちらとも言えない」という回答(184人34.9%)、情報が得られていないという否定的回答(134人25.5%)にほぼ3分割された。「困ったことを相談しやすい環境にある」という回答が6割近いにもかかわらず、情報が得られているという回答は3割程度しかない。また、関係諸機関の連携については肯定的回答(276人51.2%)が5割以上あり、否定的な意見(102人18.9%)を大きく上回った。



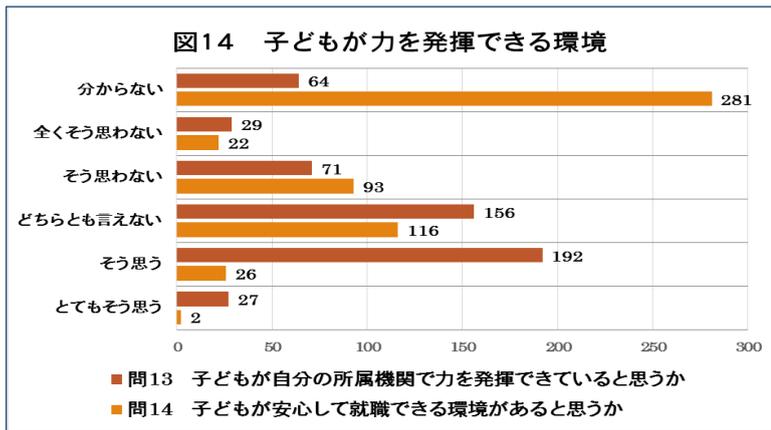


図14 【子ども】が保育所(園)・幼稚園・学校などの所属先で持てる力を発揮できているかは、肯定的回答が約4割(219人40.6%)で、否定的な回答(100人18.6%)の倍以上であったが、【子ども】が安心して就職できる環境があるかについての肯定的回答は28人5.2%に過ぎない。保育所(園)・幼稚園・学校などで力を発揮できているという回答が4割程度あったにもかかわらず、これらの施設・機関を出たあとの社会状況は厳しいものであるという認識が明確に表れている。

「保護者」と「それ以外」の平均値の差 下の表は、属性に関する問を除く22の設問について、回答者を「保護者」と「それ以外(発達支援を行う側)」の2グループに分け、5段階尺度による回答を得点とみなして(選択肢1を1点、5を5点、「6. わからない」は除外)平均値を算出した結果と、2グループの平均値の差の統計的有意差を分析(t検定)した結果である。質問文が否定的内容の場合は選択肢1を5点、選択肢5を1点とする「リバース(逆転)コーディング」を行い、平均点が小さいほど肯定的回答(そう思う)が多くなるようにした。表は保護者の平均点が高い順に並べてあるので、上位の項目ほど保護者に否定的回答が多く、保護者が特に懸念を感じている項目になる。22の設問のうち両グループに有意差がなかったのは問3-1のみで(表には含まれない)、その他はすべて「保護者」のほうが否定的であった。特に平均値の差が大きい項目(0.5以上)は赤字で示している。

表 「保護者」グループと「それ以外」グループの平均値・平均値の差
～ 保護者達に否定的回答の傾向が強い設問順 ～

問番号	設問内容 (「発達に課題がある子ども」を「子ども」と略)	(A)「保護者」の平均値	(B)「それ以外」の平均値	平均値の差 (A) - (B)
問9-1re	就労活動では、子どもに対する差別や排除(いじめなど)がある[ない]	3.70	3.14	0.56
問14	子どもが安心して就職できる環境がある	3.69	3.13	0.55
問17	子どもが参加できる地域のイベントは十分ある	3.56	3.03	0.54
問7-1re	学校では、子どもに対する差別や排除(いじめなど)がある	3.36	2.95	0.41
問8-1re	地域住民の間で、子どもに対する偏見や誤解がある[ない]	3.32	3.15	0.18
問4-1re	子どもに対する差別や排除(いじめなど)がある[ない]	3.24	2.84	0.40
問11	子どもを持つ保護者にとって、必要な情報が十分得られている	3.19	2.65	0.54
問6-1	子どもが社会参加できている	3.12	2.73	0.38
問9-2	就労活動では、子どもに対する差別や排除(いじめなど)が減ってきた	3.05	2.59	0.46
問8-2	地域住民の間で、子どもに対する偏見や誤解が減ってきた	2.98	2.56	0.42
問4-2	子どもに対する差別や排除(いじめなど)が減ってきた[と思わない]	2.98	2.37	0.62
問15	地域住民の間で、子どもが困ったときに助けてくれる人が増えてきている	2.96	2.45	0.50
問7-2	学校では、子どもに対する差別や排除(いじめなど)が減ってきた	2.95	2.50	0.45
問16	地域住民の間で、子どものことを正しく理解している人が増えてきている	2.93	2.45	0.48
問6-2	子どもの社会参加の機会が増えてきた	2.90	2.42	0.48
問5-1	子どもに対する配慮や尊重の風潮がある	2.86	2.37	0.49
問13	子どもが各所属先(保育所、幼稚園、学校など)で持てる力を発揮できている	2.84	2.62	0.22
問12	発達支援にかかわる関係諸機関は、適切な支援や情報提供を行うために必要な連携ができている	2.83	2.40	0.44
問3-1re	子どもに対する偏見や誤解がある[ない]	2.81	2.67	0.14
問3-2	子どもに対する偏見や誤解が減ってきた	2.77	2.32	0.44
問5-2	子どもに対する配慮や尊重の風潮が増えてきた	2.69	2.24	0.45
問10	子どもを持つ保護者にとって、習志野市は、困りごとを相談しやすい環境にある	2.52	2.18	0.35

(注1) リバースコーディングした否定的表現の質問文には末尾に「ない」を付けている。

(注2) 平均値が小さいほど肯定的(とてもそう思う・思う)な回答が多い。

(注3) 平均値が3.0を超えた場合(網掛け部分)は全体的に否定的傾向が強い。

(注4) 平均値の差が0.5以上は赤字で示している。